杉山儀さん（千葉県柏市 在住）から 谷貝小学校へ寄付

杉山さん（写真左）から、谷貝小学校の教育振興に役立ててほしいと日向みさ子校長（写真右）に寄付金が手渡されました。

谷貝小学校第1期卒業生の杉山 儀さんから、同校の教育振興に役立ててほしいとの想いを込めて、300万円の寄付金がありました。

杉山さんにとって思い出深い母校の門を久しぶりにくぐることで、筑波山や加波山の峰を見ながらの学校生活、かつての恩師や同級生の姿が蘇り、同校でお世話になった感謝の気持ちとして納められました。

杉山さんは、「校長先生を始め、先生方と子どもたち全員が、元気で学校生活が送れて、沢山の思い出ができることを願っています」と、懐かしそうに話していました。

真壁真園会 採りたて野菜を 福祉施設へプレゼント

真壁地内の青年農家13名で構成される「真壁真園会」（藤田健彦会長）が、真壁授産学園・真壁厚生学園・紫峰更生園に、採れたての小玉スイカやキュウリ・トマトなどを贈りました。

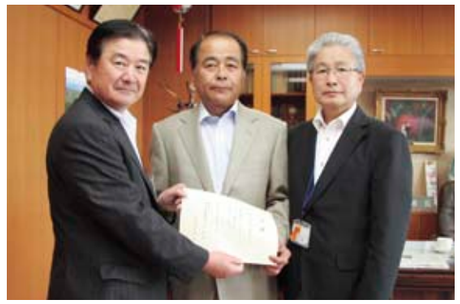
これは、同会が毎年実施しているもので、今年で18回目を迎えます。

丹精込めて作られたフレッシュな初夏の味覚に、園生たちも大喜びでした。

藤田会長は、「園生の方たちに喜んでいただけて大変嬉しく思っています。これからも、この活動を続けていきたいです」と力強く話していました。

新鮮な野菜を受け取った園生の皆さんと贈った真壁真園会の皆さん

桜川市消防団 市の教育振興へ寄付



中田市長（写真左）と石川教育長（写真右）に目録を渡す皆川団長（写真中央）

桜川市消防団（皆川光吉団長）から桜川市に、教育振興のためにと寄付がありました。

これは、市消防団が団員相互の親睦と融和を目的に、毎年開催しているチャリティーゴルフ大会時に募金し、それを寄付したもので、今年で7回目となります。

皆川団長は、「今年は、大会への参加者が多く、募金がたくさん集まりました。桜川市の将来を担う子どもたちの教育振興に役立てていただきたいです」と話していました。

今年も開催 「さくらがわ市民討議会」

5月29日に市役所大和庁舎で、（社）笠間青年会議所と（社）下館青年会議所、桜川市の間で、「さくらがわ市民討議会（9月28日開催）」に関する協定を結びました。

この討議会は平成24年度に引き続き2回目で、市民協働のまちづくりを推進するために開催。無作為に抽出された市民の皆様が、まちの課題解決に向けて討議し、その結果を市長に報告します。

平成24年度の討議会では、桜川市の魅力の発見をして、未来の桜川市について意見交換し、既存資源を活かした市のPRなど様々なアイディアが提案されました。

調印を行った（写真右から）（社）下館青年会議所 水柿貴之理事長、中田市長、（社）笠間青年会議所 大本雄一理事長

猿田小「かけっこ教室」 親子で走り方を学ぶ

6月1日に猿田小学校で、親子活動「かけっこ教室」が行われました。

これは、NPO法人日本ランニング振興機構のジュニアランニング指導員から、正しく、楽しく走る方法を親子で学ぶもので、当日は、全児童33人とその保護者27人が参加しました。

参加者たちは、走る時の脚の形や腕の振り方、スタートの仕方、走り方のコツなど、実際に親子で実践しながら、分かりやすく指導を受けました。

指導後に50m走を測定すると、「タイムが速くなった」と喜ぶ児童もいました。

指導員から走る時の脚の形を教わる参加者たち

谷貝FC 柏レイソル スクールコーチに学ぶ

子どもたちにボールの蹴り方を教える山中真スクールコーチ（写真左）

6月9日に真壁運動場で、柏レイソルサッカースクールが開催されました。

これは、市内スポーツ少年団「谷貝FC」とJリーグクラブ「柏レイソル」との繋がりで開催されているもので、当日は、谷貝FCや近隣の市、阿見町、東京都のスポーツ少年団10チーム300人以上が参加しました。

このスクールは、楽しく練習を行い、サッカーを好きになってもらえるような指導を行うもので、スクールコーチ3人が子どもたちに、ボールと触れ合う楽しさなどを指導しました。

県立岩瀬高校 「創立50周年記念式典」を開催

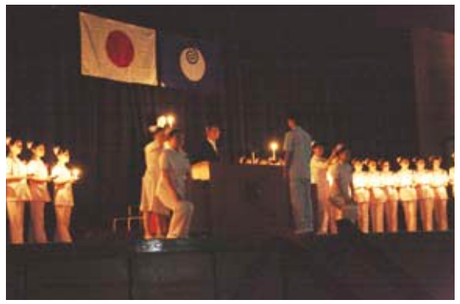
6月1日に県立岩瀬高等学校で、「創立50周年記念式典」が開催されました。

同校は、昭和39年4月に開校。昭和45年には、県立高校では唯一の衛生看護科が設置されました。開校以来50年間、生徒一人ひとりの個性を伸ばす教育活動を続け、現在は13,300人を超える卒業生たちが、地域社会などで活躍されています。

当日は、卒業生、在校生を含む約850人が式典に参加。生徒代表で挨拶をした生徒会長の市塚紗代さんは、「自分の持っているものを伸ばし、更なる飛躍をしていきたいです」と話していました。

生徒代表で挨拶をする生徒会長の市塚さん

看護のともしび 受け継ぐ 「岩瀬高校戴帽式」



小山校長からナースキャップ受け取り、戴帽する生徒たち

6月18日に県立岩瀬高等学校で、「戴帽式」が開催され、衛生看護科3年生35人が、小山茂校長からナースキャップを受け取り、戴帽しました。

この式は、看護師への道を確実に歩んでいく決意と覚悟を示すための儀式で、小山校長は「看護のともしびを受け継ぎ、次世代へ繋げて欲しい」と式辞を述べました。

戴帽生を代表して誓いの言葉を述べた清野七海さんは、「一人ひとり、理想の看護師像に向かって、仲間と精進していきます」と話していました。